

皆さん、こんにちは。岩手県岩泉町長伊達勝身です。

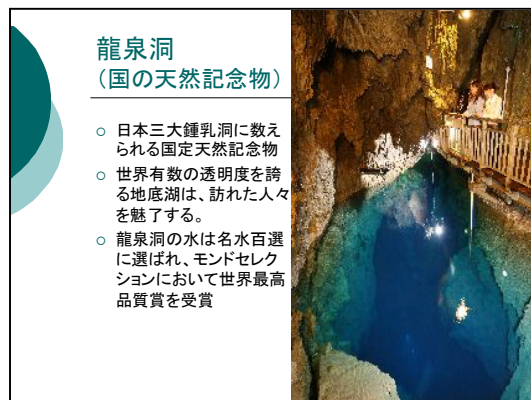
本日は、岩泉町の保有しております FSC の森を、自然の多様性を守りながら、地域の発展にも寄与するように育てていくための、岩泉町の「FSC の森作り」についてお話させていただきます。

森と水系に恵まれた、自然の宝庫

まず岩泉町について、概要をご紹介します。岩泉町は、岩手県の東北部に位置し、東は太平洋に臨み、西側は県庁所在地である盛岡市に接します。東西は 51km、南北には 41km、992.90km という本州で最も広い面積を有する町です。

当地の自然環境ですが、標高 1,000~1,300m の高山に囲まれ、林野率は実に 93%に上り、耕地面積は 2%しかありません。そうした山岳から、小本川、安家川、摂待川といった河川が流れ出ており、これら河川とその支流に沿って集落が点在、美しい森と水の町を形成しています。また、太平洋に臨む海岸では多くの貝が収穫できます。また、小本川の河口から大体 2 キロぐらい上流にはミズバショウの大群落がありますが、乱獲につながる危険があるため、詳細は伏せておくことにいたします。安家川という、北側を流れる川にもまた、四万十川に勝るとも劣らない清浄な溪流があり、地元の小学生・中学生が常日頃から美化活動を実施しています。

これはよくご存じの方も多いたと思いますが、龍泉洞です。正確な数は把握していないものの、岩泉町には 100 個以上の洞口があり、うち人間が入っていける洞窟は 2 つまたは 3 つということです。水が豊富なことでも有名で、「龍泉洞の水」という銘柄で全国的に販売しており、年間額が約 7 億円に上ります。本日は残念ながら、他所の水を出していただきましたが、今後こうした機会には是非、「龍泉洞の水」をご利用いただけますよう、お願いいたします。



町のシンボル、宇霊羅（うれら、アイヌ語で「霧のかかる峰」という意味）という山があります。ヒマラヤの山頂のような石灰層になっていて、この裏側に龍泉洞があります。岩泉町では、龍泉洞の水道水として日常のくらしで利用します。ただし水道料は安くはありません。

海岸の地形は宮古市から南はおもに、波の浸食されたリアス式海岸であり、岩泉を含む宮古市から北側、八戸市あたりまでが隆起海岸になっています。観光スポットには「熊の鼻」という岬がありますが、付近には古生層の化石層があり、茂師竜（モシリユウ）とい

う恐竜の化石が出ることもあります。頂点の平らになっている部分が、約1億年前までは、海の底だったといわれています。

これは大川七滝といい、さきほどお話ししました小本川の河口から約40kmほど上流にあり、豊富な水流を誇ります。この源流付近には櫃取（ひつとり）湿原というミズバショウの群生地があります。この湿原は実は、牛が作った湿原です。岩泉町には短角牛という、南部牛に祖先をもつ牛が飼われていました。古くは木炭を使った製鉄があったため、そうした鉄の運搬に使われた牛ですが、それを自然に放牧していました。この牛が自然と下草などを食料としたため、それがこうした湿原の形成につながりました。上流にはシャクナゲもありますし、川には天然のイワナが生息し、秋には自然の産卵の状況が肉眼で見られます。まさに岩泉町そして日本の宝と言ふべき、癒しの森の最たるものです。



短角牛という南部牛は、明治の初めにアメリカからショートホーンという牛を輸入、交配して作られました。イタリアのトリノに本部を置くスローフード協会の「味の箱船」に登録している牛でもあります。もうひとつ、大根も登録しており、岩泉町では2品目を登録していることとなります。

短角牛は、元々は鉄や木炭などを運搬する役牛でした。最近は赤身の味が良い肉牛として珍重されていますが、だいぶ頭数が少なくなりました。

この牛は、春には自然に放牧をし、自然交配で増やした牛です。春、夏のうちに山で自然交配した牛を、秋に連れて帰ります。そうすると翌年の冬期に子牛が生まれ、春になったらそれをまた放牧します。厩肥は畑に利用できますし、先ほどのような湿原も形成してきたことで、自然と人間のくらしの両方に関わってきた牛です。

ホルスタインという乳牛がありますが、ホルスタインは体高の高い牛です。一方短角牛は背が低く、人間が背中に手を伸ばせば荷物を積めるような牛でした。これらの牛が隊列を組み、運搬している時に歌ったのが有名な南部牛追い歌です。

このスライドは4月頃に見られるカタクリの原生林ですが、周りにありますのはカラマツです。元は広葉樹がほとんどでしたが、そ



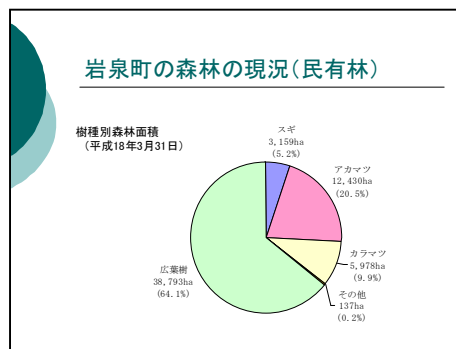
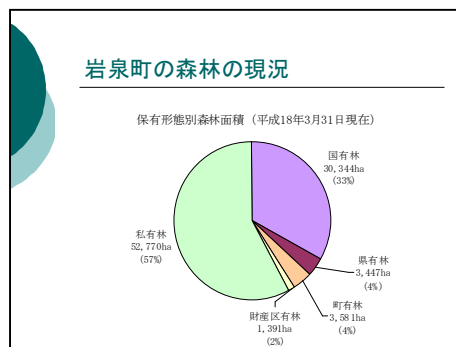
れを切った後カラマツを植え、そして牛が放牧された後にカタクリが増えてきました。

FSC 認証取得のきっかけ

ここで岩泉町の森林の構成をご紹介します。所有形態としては国有林が大変多く約30,000ヘクタール、33%を占め、町有林は約4,000ヘクタール、4%です。

次にスギやアカマツ、カラマツなど人工造林と広葉樹林の比率では、広葉樹が64%を占めます。実は人工造林地で手入れがよくない部分というのは、たいていが国有林です。

ではなぜ岩泉町で森林認証に着手したのかを、お話ししたいと思います。岩泉町はかつて、林業の町でした。山に依存した産業が唯一の生活手段でしたので、木炭や木材を川を使って海まで運搬し、港で貨物船に積み上げて出荷していました。戦後はまさに、国内産業の復興のため私有林でも国有林でもどんどん木を切り、その後に植林していきました。しかし現在ご存知のように、林業経営が大変厳しくなっています。しかしここ岩泉町は、町の面積の93%が山であり、何とかしてこの山林を利用し、林産業に従事していた住民にも自信を持ってほしいと思っていました。ところが内部だけで頑張っていきましょうといっても、なかなか活動が広まらず、外から見た岩泉の森林はどう見えるのだろうかという話になりました。つまり国際的な標準で岩泉町の森林を見た場合に、どういう意義や価値があるのかと考えはじめたことが、森林認証への取り組みにつながりました。



認証取得がもたらしたものの一木材利用のサイクル形成、そして誇り

認証取得のために、町有林をはじめとするグループ認証を採用、個人の所有者も後から追加して参加できるようにしました。

岩泉町の認証林の特徴は、大部分が広葉樹だということです。したがって針葉樹の建築材だけではなく、そこで生産される山菜とかわさびだとか、多様な林産物を収穫することができます。葉わさびの生産量については、岩泉は国内で最大です。

森林の管理について環境に配慮した例として、こうした植物由来のチェーンソーオイルを採用しています。価格が高いものですから、森林組合の方々はあまり乗り気ではありませんでしたが、何とかお願いして使ってもらっています。また、言うまでもなく、認証林

での森林管理に携わることが、地域雇用を創出します。

FSC の森林認証を大きな成果として、2点を挙げる事ができるでしょう。まず先述のように、林業に従事している皆さん方が自身の仕事に価値を見出し、誇りをもってもらったこと。もうひとつは、具体的な木材利用のサイクルができつつあることです。たとえば、「森の町内会」の事業により、間伐材を三菱製紙の工場に出荷してチップを作り、紙を作っています。こうしてできた紙を、市価より約1割高く買ってもらうことで間伐を促進しています。

間伐がなぜ必要なのかということですが、広葉樹の場合には、最初切った場所からたくさんの萌芽が出てきて、それが自然淘汰されて最後は1本の木になっていきます。つまり自然に間伐されていくわけですが、針葉樹はそういうわけにはいきません。昔は間伐した木もすべて無駄なく利用していたのですが、近年は間伐してもそれを処分してしまいます。ですから、森の町内会事業を始めたときに、それまで無駄にしていたものが、もう一度木を使うことで命がよみがえったと、本当に嬉しい思いをいたしました。

そして2007年、三菱UFJ投資信託の会社の方がFSC企業の森サポーター制度の、初めてのサポーターになられたわけですが、自分たちの森に企業の人に来て、こんな見方をしてくれるのだという、大きな自信となりました。

認証木材のさらなる利用、地方の豊かさの再発見を

今後の目標としては、認証材を活用して製品を作ることに優先的に取り組んでいきたいと考えております。例えば築40年ほどの公共建築物は現在たくさんあり、建て替えの時期に来ています。保育所など公共施設を建て替える際、認証材の集成材を作って利用したり、あるいはそうした製品の展示館を建て、企業の森のサポーターの方に紹介するツアーなどを企画していきたいと考えております。

現在多くの地方自治体が、自信を失っています。つまり価値観として、首都圏がよくて田舎はだめといった二極分化をし、結果、都市と地方の格差がどんどん広がっています。しかしよく考えていただくと、2度の戦争を経て日本がここまで成長発展してきたのは地方の力によるわけですし、首都圏で活躍している人たちも、その多くが地方出身者なわけです。

そうした意味からも、東京の企業の方にもぜひ地方へ来ていただき現状をご理解いただき、森林の役割を実感いただくとともに、認証林で取り組んでいるわたしどもの活動を見ていただければと考えております。

地方を元気にすることは、教育にも結びつきます。昨今輸入食材にまつわる事件などもあり、食育が注目されています。国としての食料自給率が40%を割ることじたい考えられないことですが、地方でも、地元の食材ではなく市販品を推奨するような政策を取り続けてきました。働いているお母さん方のための学童保育でも、こどもがおやつにカップめん

を持ってきて、名前を聞いたら当役場の保健師の子どもだったなど、驚くようなこともあります。しかしこれが日本の現状なのです。そういったものを見直していくのは田舎しかない、と考えております。色々と面白い取り組みをしている町でありますので、皆様どうぞ岩泉町にお越しいただきますようお願いして、最後といたします。ありがとうございました。